

すいた創政会通信

みんなで創ろう 元気な吹田!!

吹田市議会議員

ば ば
馬場けいじろう



連絡先

〒564-0041 吹田市泉町5-3-5 TEL 06-6389-8555 FAX 06-6389-8558
E-mail babakeijiro@gmail.com URL http://www.baba-keijiro.com

H29年

5

月議会トピックス

- 市立吹田スタジアムにネーミングライツ（命名権）を導入
- メイシアターの大規模改修計画を見直し

福祉避難所の 設置・運営について

馬場 本市では現在、市有施設8か所、民間施設20か所の計28か所を福祉避難所として指定しているが、これで十分なのか。

福祉 福祉施設への非難者を約4千人から5千人程度と想定しているが、現在の28施設の収容人数の合計が125人であり、必要数に達していない。

馬場 障害者施設を対象に福祉避難所となりうるか意向を調査したと聞いたが、その概要を示してほしい。

福祉 昨年6月、市内の障害者施設など136施設に福祉避難所の指定に向けた意向調査を行い、103施設から回答があった。前向きな回答のあった施設に対し説明会を開催したが、人材不足や24時間での対応が困難との理由により、指定に至る施設はなかった。

馬場 すでに福祉避難所に指定されている施設でも、災害時の人手不足への心配の声が聞かれる。その解消のため、福祉的知識や経験を持った市民の皆さんに人材登録してもらおうべきであると昨年、都市環境防災対策特別委員会から提言したが、その後の検討状況はどうなっているか。

福祉 福祉避難所運営調整会議の中で議論を重ね、専門職に限らず、一般の方や市内に多数いる大学生など広く市民の方に登録いただく「福祉非難所支援ボランティア事前登録制度」として、年内の実施に向け、現在準備を進めている。

障害者の避難の場となる福祉施設の耐震化

馬場 熊本地震では、福祉避難所が十分に機能しな

かった。施設自体が被災したり、周知不足で一般住民が避難したりして受け入れる余地がなくなったからである。現在、福祉避難所に指定されている施設の耐震性は把握しているか。

福祉 耐震・耐火構造の建築物であることを福祉避難所に指定する基準にしており、すべて1981年に施行された新耐震基準に適合している施設である。

馬場 熊本地震では、障害者は自分が普段通っている施設に行き、そこに留まるか、施設が被災していた場合は自宅に待機されていたそうである。福祉避難所の指定を受けることを条件に、福祉施設の耐震化を財政的に補助することはできないか。

福祉 障害者の方が普段通っている身近な施設に避難することは想定される。福祉施設の耐震化の補助については今後の課題として考えていく。

避難所に福祉避難室の設置を

馬場 福祉避難所の指定が追いついていない現状に加え、災害弱者を一度一次避難所で受け入れ、それから福祉施設に移送する手段の不足、身体的精神的な不安もあり、一般の避難所と機能を分けることが現実的なのか疑問視する関係者もいる。一般の避難所が福祉避難所の機能を併せ持ち、介助が必要な人を元気な地域住民が支えるあり方が、コミュニティとして最善なのではないかという考え方である。

京都府では、一般避難所のユニバーサルデザイン化に着目し、要配慮者にも対応できる「福祉避難コーナー」の設置を進めることとし、ガイドラインと共通のサインを定めている。

本市では「福祉避難室」の設置についてのガイドラインを定めているか。

福祉 福祉避難室については、一般の避難所内に設置されるため、ワンストップで要援護者の受け入れを済ませることができ、移送や人手の問題も解決できるため、大変有効であると考えている。本年3月に改訂された「地域防災計画」に位置付けられているので、関係部局と連携し、検討していく。

ネーミングライツの導入について

馬場 市立吹田スタジアムへのネーミングライツに関して、歳入確保策として従来から導入を求めてきたことで、大いに評価している。（※全会一致で可決）

基金の活用方法として、スタジアムの利用促進のほか、ホームタウン推進事業やスポーツ施設の環境整備としているが、ホームタウン推進事業に関しては、特定の団体に限定せず、多様な団体が様々なアイデアを掲げて応募できるような形態が望ましい。

都魅 現在は市民ふれあい事業やパブリックビューイングなどを実施している。今後、ガンバ大阪のホームタウンとして、市民に喜んでもらえ、市の賑わいの創出になるよう、手法など様々な観点から検討していきたい。

馬場 スポーツ施設の環境整備について、具体的に更新や修繕が必要と考えている施設はあるのか。

都魅 各施設の老朽化が進んでおり、雨漏りなどの修繕やトレーニングマシンの更新など、安心安全にご利用いただけるよう年次計画に沿って整備を行う。

スタジアムについては、歩行者導線など周辺環境整備が課題であり、その改善に向けて取り組んでいく。

多目的スポーツ広場の整備を

馬場 ぜひ子どもたちが自由にサッカーやキャッチボールをできる環境を整備してほしい。市内南部は大きな公園が少なく、小さな公園には危険なボール遊び禁止などの看板が立てられており、子どもたちの遊び場がない。中の島公園に設置予定の多目的スポーツ広場のようなものを市内に計画的に整備すべきである。

都魅 気軽に身体を動かすことができる場所が、市内に多くあることは、健康寿命の延伸や子どもたちの健やかな成長という観点からも非常に有効であると認識している。

今回中の島公園に設置する多目的スポーツ広場の利用者の意見や利用状況を参考に、市内の他の場所での整備の可能性や必要性などを研究していく。

メイシアターへのネーミングライツ

馬場 全国の自治体ではスポーツ施設や文化施設などへの導入事例が多く、都市公園や公道、歩道橋などへの事例も見られる。豊中市では市立体育館や駅前広場など8施設で年間約530万円の収入となっている。

本市で最も高額での導入が考えられるのはメイシアターである。長く親しまれた愛称が変わることに抵抗があるため、尼崎総合文化センターのあましんアルカイックホールのように、施設そのものではなく、大ホール、中ホールへのネーミングライツも選択肢として考えられる。アルカイックホールの場合は年間700万円であり、メイシアターも同程度の収入が見込め、老朽化した設備や備品の更新費用に充てることができる。

都魅 各ホールへのネーミングライツの導入も含め、市民の声をしっかりと聞いて検討していきたい。

健康増進のため、健康遊具の活用を

馬場 北大阪健康医療都市（^{けんとう}健都）に設置される健康増進広場には、医学的な見地から選ばれた健康遊具が配置されるということで個人的にも楽しみにしている。ぜひ多くの市民に利用していただきたい。

千里南公園には可動式の健康遊具がすでに設置されている。早朝から50名以上の高齢者が集い、健康維持のために汗をながしているそうで、一昨年7月にNHKの番組にも取り上げられた。その利用者数やどれほど健康維持に資するかなど、データを取っているか。

土木 千里南公園には平成12年に玉石をランダムに敷き詰めた健康歩道を、平成22年には健康遊具をそれぞれ市民から寄贈を受けている。身近に利用でき、健康づくりや健康の維持増進に役立つなど、利用者から多



千里南公園の可動式健康遊具

くの声ももらっているが、利用者数の把握や健康状態の変化などの調査は実施していない。

馬場 平成28年3月に策定された「健康すいた21」において、市が取り組む施策として健康遊具の設置が挙げられている。市内の公園への現在の整備状況と今後の計画について示してほしい。

土木 健康遊具は市民の健康に対する関心の高まりもあり、平成3年に公園のリニューアルを契機に設置が始まり、現在、公園や遊園など合わせて51か所、151基が設置されている。

健康遊具の整備に関しての年次的な計画はないが、健都での取り組みやその効果も踏まえ、遊具の種類や数など、施設を更新する機会などをとらえ、設置を検討していく。

馬場 神奈川県^{やまと}大和市では平成26年から29年までの4年間で約100か所の公園に健康遊具を設置する目標をたて、昨年度末で82か所に設置済みとなっている。そして、遊具を設置したら地域住民向けに健康遊具体験会を行い、使用方法のレクチャーを行うようである。健康寿命の延伸を掲げる本市としても見習うべき姿勢ではないか。

土木 大和市の取り組みは、健康遊具の整備にとどまらず、利活用と市民の健康増進につながる先進事例となると考えている。健康遊具の利活用については本市においても検討すべき課題であり、健都の健康増進公園での医学的知見に基づく健康遊具の利活用、取り組みなどの効果も踏まえ、関係部局とともに検討していきたい。

馬場 今日はこっこの公園、明日はあっちの公園と公園をめぐり、健康維持に汗をかく。市民にワクワク感を提供することができ、市長が言う「幸齢社会」の実現につながるのではないか。健康遊具の適正な配置と活用に取り組んでほしい。

文化財の保護と活用について

馬場 旧西尾家住宅では独自事業としてこども茶道教室が毎年開催されてきたが、なぜ本年度から中止になったのか。

地教 旧中西家住宅や浜屋敷を含む、市所管の歴史的建造物の目的ごとの役割分担を明確にした際、旧西尾家住宅は国指定の重要文化財として、保存に重点を置

く活用へと運営方法の見直しを行い、こども茶道教室を中止した。

馬場 非常に残念な判断である。子どもが文化施設を訪れ、見学に加え、様々な体験をすることはたいへん重要である。旧西尾家住宅、旧中西家住宅、浜屋敷を社会見学や遠足で訪れる小学校はそれぞれ何校あるか、また体験型のプログラムは行われているか。

都魅 平成28年度に社会見学のため浜屋敷を訪れた小学校は2校である。「七輪で火おこし」や「新春かるた遊び」「端午の節句」など日本の伝統文化を知るための体験プログラムを折々に実施している。

地教 旧西尾家住宅は平成27年度に1校、旧中西家住宅は実績がない。旧西尾家住宅では伝統こども教室として抹茶体験や蚊帳の体験、折り紙を使った網代づくりなどを行った。



旧西尾家住宅でのお茶会に夫婦で参加

子ども達が文化財に触れる機会を増やすべき——

馬場 本年3月に策定されたシティプロモーションビジョンにおいて、本市の強みとして「芸術・歴史文化に触れることができる多くの文化財・施設も存在する」とし、具体的に旧西尾家住宅や旧中西家住宅を挙げている。さらにコンセプト実現にむけた暮らしの場面の想定として、「子どもがスポーツや文化、学びの場など、様々な体験や学習ができる」とも記載されている。

子どもたちが本市の文化財建造物に触れることは、本市への愛着や誇りを高めることにつながるが、文化財をどう活用していくべきと考えているのか。

都魅 文化財は芸術や歴史、文化に触れることができる地域の資源であり、このような資源を活用し、郷土愛の醸成を図ることは、本市のシティプロモーションを推進する上でも重要である。各部局が持つ強みがつ

ながるよう、全庁横断的に多様な連携を促進し、文化財のより効果的な活用が図られるよう努めていく。

馬場 現状では不十分である。都市魅力部と教育委員会がしっかり連携して取り組みを推進してほしい。

市役所の夜間・休日対応について

馬場 現在、本市では市民課や国民保健室などは土曜日も業務しているが、茨木市など日曜日に窓口を開設している自治体も多くある。市民サービスの向上という観点から窓口開設日時を順次拡大させていくべきではないか。アンケートなどで市民ニーズは把握しているか。

行経 窓口業務の時間延長や休日開庁についての市民ニーズについては、平成22年に実施した市民意識調査の中で、「現状のままで良い」が47.7%、「休日開庁を希望する」が46.6%、「平日の時間延長を希望する」が16.9%という結果であった。

窓口業務の拡充については、電子申請など代替手段の有無、コストや他市の状況の観点から、部課ごとの状況を踏まえ、総合的に必要性を判断したい。

馬場 まちの環境美化に関することなど、地域環境課や事業課などには日曜日であっても市民からの要望や問い合わせが多いのではないかと。先日も鳥獣の死がいの除去について土曜日に市役所に電話したところ、月曜日に電話し直してほしいと言われたと市民から苦情を受けた。土日にも対応できる体制を整備すべきではないか。



環境 勤務時間外の対応については、職員の連絡先を本庁警備室に提出しており、緊急時における体制は確保している。

馬場 体制を整えていても、機能しなければ意味がない。市民が早急に対応してほしい事案についてはきち

んと連絡が上がるよう、警備室との連携を見直してほしい。

福祉 = 福祉部次長 **都魅** = 都市魅力部長、
土木 = 土木部長 **行経** = 行政経営部長、
地教 = 地域教育部長 **環境** = 環境部長

人工知能(AI)社会に向けての青少年教育について

学習指導要領が平成32年に改正され、小学校で「プログラミング教育」が必修となります。プログラマーを養成するわけではなく、コンピューターへの苦手意識をなくし、「プログラミング思考」を育むことが目的とされています。これは、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力のことです。

算数や理科など既存の教科の中で、プログラミングを取り入れた学習が実施されることになり、何年生の、どの教科で、どんな内容を何時間学習するのか、といった具体的な中身については各学校が判断します。各学校の教育目標、ICT環境や指導体制といったそれぞれの実情に合わせて進めていくというわけです。

すでに中学校では技術家庭科で「プログラムによる計測・制御」が必修になっていますが、学校の先生次第でうまく学べる場合もあるものの、うまくいっていない事例も多いようです。新たな課題にスムーズに取り組めるよう教育研修のあり方を整備する必要があります。

9月定例会は9月1日から9月21日まで開催予定

⇒すいた創政会通信Vol.10は10月中旬に発行予定です。

馬場けいじろうプロフィール

昭和52年9月28日生まれ
西吹田幼稚園、吹田第二小、吹田第六中、東大寺学園高校、早稲田大学政治経済学部卒
平成27年4月 吹田市議会議員 初当選
〈議会での役職（6月に改選されました）〉
健康福祉常任委員会副委員長、広報委員会委員、総合計画検討特別委員会委員、環境審議会委員